



巻頭言

呼吸器・アレルギー内科 診療科長 / おかだ たけのり
岡田 壮令



2024年が明けたと思ったら、もうすでに4ヶ月も過ぎて中盤にさしかかってきています。この4年は新型コロナウイルス感染症の流行の波が反復し、その都度翻弄されてきた印象ですが、コロナについては共存が当たり前となり、5類感染症としての対応はそれなりに必要なが、社会的にはようやく落ち着きを取り戻しつつあるようです。しかしながら感染症はそればかりではありません。『はしか：麻疹』の流行が見られたり水痘などが話題になったりと、呼吸器を介する感染症だけでも枚挙にいとまがありません。この先、夏場に向けて流行するアデノウイルスなどの他のウイルス感染症の流行もあり、感染予防への対策は怠ってはいけないと考えています。

ところで、それら急性の感染症だけではなく、慢性、長期に感染が持続する呼吸器感染症があることをご存知でしょうか？その一つに肺非結核性抗酸菌症があります。最近、患者数の増加が報告されており、日常臨床の場でも遭遇することが多くなっています。患者さんの中にも健康診断や他の病気のためにCTを撮ったら、偶然に疑い病変が発見されたという方もいらっしゃるかもしれません。非結核性抗酸菌（Non Tuberculous Mycobacterium:NTM）は、抗酸菌という結核菌の仲間ですが、結核とは異なりヒト-ヒト感染はありません。NTM症の中でも多いのが一般にMACと呼ばれるMycobacterium avium, M. intracellulareによる感染症です。NTMは環境中の常在菌でエアロゾルとなったものを吸入することで感染するとされ、特にMACは中年以降の女性に多くとされます。治療法も定められており、最近では難治性病態には新しい治療薬も導入されていますが、決定打となる治療薬はなく、何種類もの抗菌薬を併用しながら年単位の長期治療が必要になります。また治療で軽快しても再発したり、治療中でも病状が進行することもある一方、無治療でも病勢の進行がなく、自然軽快する場合もあり、病態は一定ではありません。このため、診断が確定しても直ちに全例に治療を行うわけではなく、治療が必要な症例を選択することも重要で、患者さん個人に合わせた取り組みが必要となります。かように慢性の経過をとるため、地道に付き合うことが求められる疾患の一つです。

呼吸器の感染症というと急性の感染症が話題になることが多いですが、このように慢性経過をたどる疾患もあり、感染症への対策は、慌てずにそこで可能なことを地道に行なってゆくという心構えも必要なのではないでしょうか。

開院10年の節目を過ぎて、できることを確実に行うということ、改めて気を引き締めてゆきたい所存です。



第121号のトピックス

- 巻頭言（呼吸器・アレルギー内科）
- 放射線技術部紹介
- 防災訓練を行いました
- 第18回公開講座開催のお知らせ
- フォーミュラE世界選手権 医療活動報告
- 編集後記

2024年1月より放射線技術部の責任者をさせていただいております、診療放射線技師の大澤三和と申します。放射線技術部は、4月に3名の新入診療放射線技師が仲間となり、27名の診療放射線技師が在籍しております。診療放射線技師は、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、事務員、その他の医療専門職と協力して、一般撮影（レントゲン）、乳房撮影（マンモグラフィ）、骨塩定量検査（骨密度測定）、X線透視検査、CT検査、MRI検査、血管撮影、核医学検査、放射線治療を行っています。初めての方にも、過去に検査・治療を受けていただいたことがある方にも安心して検査・治療を受けていただけるよう取り組んでおります。

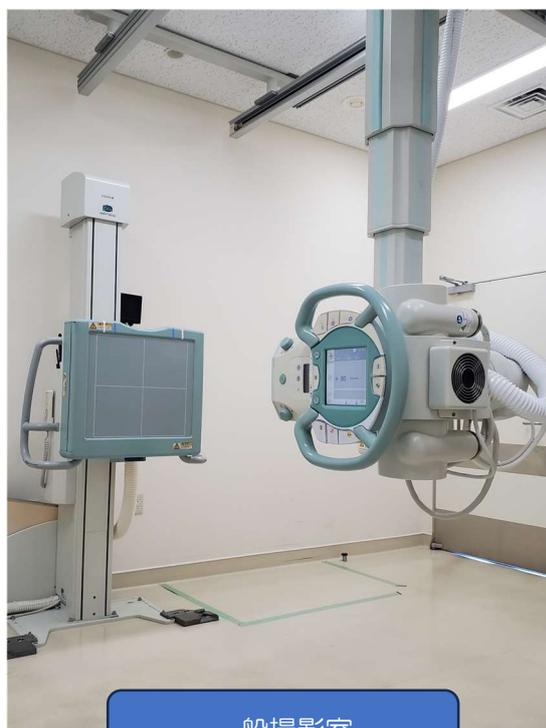
今回は、胸部X線撮影（胸部レントゲン）を例として、診療放射線技師の仕事をご紹介します。検査を担当する診療放射線技師は、医師からの検査依頼を確認し、着替えのご案内、自己紹介、患者さんのご本人確認を行った後、撮影する部位や回数、どのように撮影するか説明を行い、患者さんに検査に同意していただきます。

次に、撮影の体位を整位（調整）させていただき、撮影条件（放射線量）を検査部位や患者さんに合わせて設定した後に息止め合図を行い撮影します。撮影した画像はすぐに確認し、検査終了となります。

患者さんが検査室を退出後、撮影した画像が適切であることを確認する「検像」を担当する診療放射線技師がダブルチェックし、電子カルテに画像を送信しています。

検査時間は、2分程度の検査になりますが、常に患者さんの症状や状態に合わせ、苦痛の少ない検査を受けていただきたいと思います。そのため、患者さんから教えていただく情報は大変貴重です。時には、難しいお願いをさせていただくこともありますが、患者さんにできるだけ負担をかけずにご協力いただきながら、私たちが撮影の工夫をすることで、医師が診断できる画像を提供することが診療放射線技師の役割であると考えております。

これからも放射線技術部は、病院の理念でもある「まごころの医療」、「安全・安心の医療」の提供と大学病院の役割である「診療」、「教育」、「研究」に取り組み、患者さんに寄り添うことができる診療放射線技師を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



一般撮影室

防災訓練を行いました

4月5日（金）に新入職員を対象とした防災訓練を実施しました。今回の訓練では、臨床研修医、臨床研修薬剤師、看護師など計135名の新入職員が参加し、屋上から地下階までの電気・医療ガス・免震構造などの設備見学のほか、院内の各階に設置されている屋内消火栓および消火器について使い方を確認するとともに、消火栓を使って屋外で実際に放水を体験する防火訓練を行いました。



ほとんどの新入職員にとって、設備を実際に見るのは初めてのことで、また消火設備にはじめて触れたという職員も多く、これから病院に勤める職員の一員として防災意識を高める大変良い機会となりました。

当院は平成26年より「東京都災害拠点病院」の指定を受けており、災害時には地域の拠点病院として機能することが求められています。今後も防災訓練の実施などによる職員の防災意識の向上に努めてまいります。



Pick up

第18回公開講座開催のお知らせ

6月8日（土）に第18回昭和大学江東豊洲病院公開講座を開催いたします。皆様のお申し込みをお待ちしております（受講100名まで）。

開催日時：令和6年6月8日（土）14:00~16:30 開場 13:45 から
開催場所：昭和大学江東豊洲病院 9階講堂

『暮らしと健康・しっかり噛んで飲み込もう！—いつまでもおいしく健康に—』

演題：「飲み込みに大事な歯とお口の健康」

演者：昭和大学江東豊洲病院 病院歯科 准教授 鎌谷 宇明（かまたに たかあき）

演題：「^{ごえん}のどを鍛えて誤嚥を防ぐ」

演者：昭和大学江東豊洲病院 耳鼻咽喉科 教授 木村 百合香（きむら ゆりか）

申込：受講のお申し込みは

5月8日（水）9時から

☎03-6204-6000（代表）

昭和大学江東豊洲病院管理課

費用：無料

主催：昭和大学 後援：江東区

定員に達し次第申込終了のため、お早めに申し込みください。



フォーミュラE世界選手権 医療活動報告

3月30日(土)にフォーミュラE世界選手権が東京で初開催されました。フォーミュラEとは、バッテリー式電気自動車によるレースで、排気ガスや爆音もでないことから「電気自動車のF1」と呼ばれています。

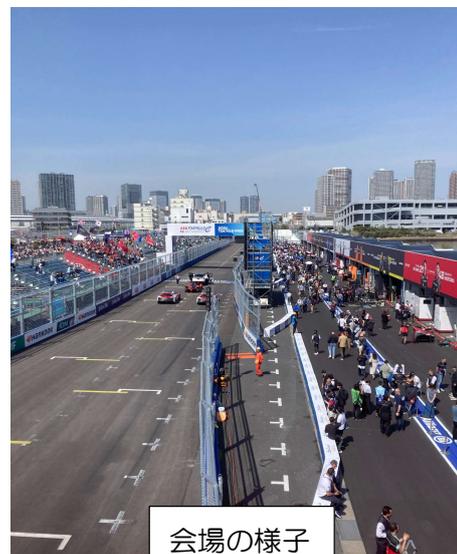
東京ビッグサイト周辺の公道がコースとなっていた本大会では、緊急時の医療協力のために当院から、準備期間の28日(木)に泌尿器科 森田将准教授、29日(金)に脳神経外科 池田教授、大会当日30日(土)に小児外科 川野准教授が派遣され、医療活動を行いました。



脳神経外科 池田教授



泌尿器科 森田准教授



会場の様子



小児外科 川野准教授

3月30日レース当日に現地で医療救護スタッフとして参加してきました。当日は天候に恵まれ、多くの観客の入る中、フリー走行、予選、本選と3部にわたり、サーキット走行が行われ、重大事故の発生なくイベントは終了しました。僕は一日医療救護所に詰めており、数名の軽症者対応にあたりました。そのうち、ピット内で捻挫をしたクルーとイベント終了後に頻脈性不整脈をきたしたクルーを当院に搬送依頼し、救急受診となりました。幸い両名とも軽症で診察のみにて帰宅しています。

編

集

後

記

桜の花が散り、深緑が美しい季節になりました。新年度が始まり早1ヶ月。新しい環境に飛び込んだ人にとっても、新しい仲間を迎え入れた人にとっても、環境の変化に慣れてきたと同時に疲れを感じ始める時期でしょうか。生活リズムの変化や様々なプレッシャーから、気付かない内に無理をしてしまう人は少なくありません。医療の世界では、医師の働き方改革が行われ、労働時間の整備やタスクシフトにより医師の健康を保ち、これまで以上に安全・安心で質の高い医療を提供できるよう、日本全体が大きな変化を迎える年度となりました。院内でも専門性をもったスタッフがこれまで以上に専門業務に専念し、より安全な医療を提供できるよう環境整備が進んでいます。今までの医療を守りつつ、今まで以上に質の高い診療を行えるよう、昭和大学全体で努めてまいります。

心臓血管外科 おなか 尾仲 こうすけ 絢輔



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院
Facebook ページ